

# 待兼山 PRESS

大阪大学  
と、  
ともに、  
とよなか

TOYONAKA

一緒に  
学びましょう!

マチカネワニ  
すごい  
迫力だリン♪

特集

つながるまなびば  
大阪大学×豊中市!

## 四國五郎展

～シベリアからヒロシマへ～

大阪大学21世紀懐徳堂×豊中市  
レクチャーコンサート

音楽のアラベスク 文学のアラベスク

とよなかりレーションハウスプロジェクト

市民と一緒につながりを見つめ

地域の課題に向き合う。

Cover Photo

大阪大学総合学術博物館待兼山修学館3階  
マチカネワニ化石骨(タイプ標本)横にて

# つながるまなびは

大阪大学 × 豊中市!

Osaka University

Toyonaka City



## 会場となった古民家サロン 桜の庄兵衛ギャラリー

### 登録有形文化財(建造物)

江戸時代の末から先祖が住み継いできた家は、戦争中、家族だけでは営むことが難しくなったのでしょ。すぐそばのこじんまりした家に移っていました。戦後生まれの私が育ったのもその家です。古い家は通信省の寮になるなど利用されながらも、近年は空き家になっていました。状況が一変したのは阪神・淡路大震災でした。半壊の認定が下り「壊すしかない」と思い詰める一方、立派な梁を見上げ、この家を守ってきた先祖のことを思うとその決断もできません。そんな時「古い家を残しながら、快適に住まう」という民家再生の仕事を知り、それをライフワークにされている建築家に依頼。震災から3年後、今の住居とギャラリーが完成しました。古文書の中に「桜(塚)庄兵衛殿」の宛名の手紙があったことから、代々の庄兵衛さんの名前をもらって「桜の庄兵衛ギャラリー」としました。コンサートや落語会、漆芸や藍染め、陶芸などの展示会を催しています。展示会では柔らかな光や風が作品を引き立ててくれます。

ギャラリー 桜の庄兵衛  
奥野 孝子



2019年12月1日、約70名が優雅なひとときを楽しんだ。

大阪大学21世紀懐徳堂×豊中市レクチャーコンサート

## 音楽のアラベスク

## 文学のアラベスク

時代を越えるアラベスク  
たゆたう音に魅せられる。

豊中市では、毎年10月頃からの約2カ月間を「とよなか音楽月間」と定め、市内でたくさんさんの音楽イベントが開かれています。その一つとして市と共同開催したのが、このコンサートです。

アラベスクとは、もともと「アラビア風」という意味の言葉で、西洋と東洋の文化が融合したイスラム美術で用いられた文様や装飾のことです。植物や水など自然の事物をモデルにした、流れるような優美な曲線、無限に連続・反復する幾何学文様が特徴です。18世紀以降には、美術のみならずジャンルを越えた芸術様式としてヨーロッパ全土に伝播。19〜20世紀には、東洋的なものを求めるオリエンタリズムとも結びつきました。現代にも、トルコやアラブ、西洋の伝統音楽などが渾然一体となったポップミュージック、ト

ルコアラベスク音楽に代表される芸術手法として思っています。

このように、時代を越えて流れ、反復されながら無限に変容していくアラベスクの世界を、音楽と文学とで楽しんでいただくコンサート、前半は、アラベスクの歴史ストーリーとともに、ピアニスト・吉田朝子さんの選曲・演奏で、ドビュッシー、三善晃、シューマンという3人の作曲家による「アラベスク」をタイトルにした曲を聴いていただきました。

葛藤の中で変化を求めた  
アンデルセンの人と芸術。

後半は、19世紀デンマークの作家、アンデルセン文学とアラベスクとの関係にスポットを当てました。童話作家として知られるアンデルセンは、小説や戯曲、詩、旅行記やエッセイのほか絵画作品も数多く残したマルチ芸術家です。ゲーテの「アラベスク論」に感化され、ようやく蒸気機関車が走ったというような時代に、30回もの海外旅行を敢行。イスラムを含めてさまざまな文化に触れ、自らの世界観、文化観を大きく変容させていきました。

アンデルセンが旅を求めたのは、彼が貧しい靴屋の生まれだったことと関係があります。階級社会の中で抱いた疎外感や上昇志向など複雑な心の葛藤が、国外へ、また新時代の芸術への憧れを抱かせました。童話の中にも旅や

成長をモチーフとするものが多く、特によく登場する渡り鳥は、変化していくものの表象であると考えられます。さらに、彼の絵画には19世紀とは思えないようなポストモダンな作品が数多くあり、文学においても作品の中に別の作品を組み込むメタフィクションという、これもまたポストモダンな手法を取り入れました。

時代を越えた作家、アンデルセン。その常に変化を求めた姿がアラベスクに重なります。よく知る童話作家の意外な側面に、新鮮な驚きを感じていただいた方も多かったようです。レクチャーの後は、旅や移動、流れるといったイメージで吉田さんに選曲していただいた2曲に聴き入りました。フィナーレはアンデルセンと親交の深かったシューマンの曲。素晴らしい演奏とともに、アラベスクの世界を再発見できたひとときでした。



田辺 欧 Tanabe Uta  
大阪大学大学院言語文化研究科 教授

吉田 朝子 Yoshida Asako  
ピアニスト

- 演奏曲
- ・ドビュッシー: 2つのアラベスク
  - ・シューマン: アラベスク op.18 八長調
  - ・プーランク: 3つのノヴェルlette
  - ・シューマン: 予言の鳥 他
- お話
- ・アラベスクとアンデルセン

大阪大学総合学術博物館第22回企画展

四國五郎展

シベリアからヒロシマへ

世界で初めて核爆弾を落とされた「ヒロシマ」を拠点に、表現を通して反戦平和活動を生涯続けた、画家で詩人の四國五郎さん。その展覧会が2019年4月26日〜7月20日に開催されました。長男・四國光さんに、父親としての五郎さんの人柄と表現者としての生き方をうかがいました。

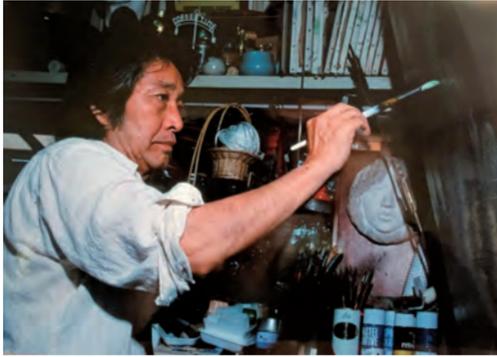
戦争を描き伝える  
という生き方。

幼い頃の記憶にある父は、いつも描いていました。狭いアパートの真ん中にどんとイーゼルが置かれ、油絵の具の匂いが漂う中、息をするように、食事をするように、淡々と延々と描く。父にとっては、表現することが生きることでした。

小学生の頃、何度も言われたのが、「戦争を起こす人間に、本気で怒れ」という言葉。「ほんの一握りの政治家が起こす戦争で、桁外れの人が不幸になる。戦争を起こす本当に悪い奴に対して、おまえは怒れ」。父の人生の背骨のような考えを、早いうちに子どもに伝えておきたいと思ったのでしよう。絵を描くことも、それと同じ。戦争をしない、戦争に加担しないことの大切さを後世に伝えるという、表現活動が生き方そのものだったのだと思います。

被爆した弟に  
背中を押されて。

父は、応召して兵士として体験した戦争、シベリアに抑留された捕虜としての戦争、故郷と家族が被爆した戦争



四國五郎(1924~2014)

という3つの戦争を体験しました。展覧会では、被爆死した父の弟・直登が大けがを負った8月6日から22日後に亡くなるまで書き続けた日記を展示しました。それを父は、自分への遺言だと受け止めた。シベリアにいる時から、戦争を描いて伝えるつもりでしたが、最後は、弟に背中を押され人生を決めたのでしよう。

そして、シベリア抑留時代の記録として密かに描いて持ち帰った豆日記をもとに、1000ページの画文集『わが青春の記録』をまとめました。1950年代になると、詩人の峠三吉さんとともに、「辻詩」と呼んでいた

手描きの反戦反核ポスターを来る日も来る日も描いては、仲間たちと街に貼り出しました。警察に見つかりそうになるとはがして、また別のところに貼り出すゲリラ的な活動です。150〜200枚ほど描いたうち、現存するのはたったの8枚だけ。その四隅には何回も貼り替えられたことを示す画びょうの跡が、生々しく残っています。

ヒロシマを忘れるな  
というメッセージ。

私の知っている父は、声を荒げたこともない物静かな人でした。しかし、作品は十分に父のメッセージを語っています。何枚も描いた母子像をモチーフにした作品では、愛や慈しみが、戦争によって一瞬にして悲しみと怒りに変わることを表現しています。戦後、長い間そのままになっていた原爆バラックの風景を描いた「相生橋」という絵は、バラックを取り壊された時の廃材をもらって作った額縁に収めてあります。静謐な中に、ヒロシマを忘れるなという父の思いがにじむ私の大好きな絵です。父の展覧会は、街なかに、突然現れる戦争です。その作品を通して、戦争の記憶、そして何事もない日常がいかに尊いのかを、これからも語り継いでいきたいと思います。



「相生橋」

関西初の展覧会で、  
四國五郎再評価の動向を伝えたい。

戦争末期に徴兵され、シベリア抑留を体験し、その間に原爆で弟を失った広島に画家四國五郎は、戦後、市民のなかで市民のために、反戦平和を主題とした絵を、そして広島に街と人を、描き続けました。本展覧会は、近年急速にその再評価が進みつつあることを踏まえて開催された、関西初の四國五郎展です。会場には約8,000人が訪れ、生涯を通じて反戦平和を訴えた画家の作品世界を堪能しました。

6月には、四國五郎ご長男の四國光さん、俳優の木内みどりさんにご登壇いただくかたちで、「講演と朗読 四國五郎と『絵本 おこりじぞう』」が開催されました。四國五郎の作品のなかで最も広く親しまれているのは『おこりじぞう』の挿絵ですが、木内さんによる『おこりじぞう』の朗読、そして長男光さんによる父四國五郎の人となりの紹介は、深く聴衆の心を捉えました。「五郎さんの平和への想いがひしひしと伝わってきた」といった熱い感想が多数寄せられるなど、聴衆一人ひとりが四國五郎の遺したメッセージを受け止めるよい機会となりました。

宇野田 尚哉 Unoda Shoya  
大阪大学大学院文学研究科 教授



豊中市立文化芸術センターでの「講演と朗読 四國五郎と『絵本 おこりじぞう』」。左から宇野田教授、木内みどりさん、四國光さん。(木内さんは2019年11月に急逝されました。ご冥福をお祈りします。)



(上) 四國五郎の長男・四國光さん  
大阪大学共創機構社会学共創本部/  
総合学術博物館と豊中市の主催による四國五郎展会場にて

(右) 原爆により命を落とす少女を主人公とした絵本。作品としても平和教育の教材としても高く評価され、長く読み継がれている。

問合せ先  
大阪大学総合学術博物館  
☎06-6850-6284  
<https://www.museum.osaka-u.ac.jp>



『絵本 おこりじぞう』(金の星社)



「殺されたわが子」

とよなかリレーションハウスプロジェクト

# 市民と一緒につなばりを見つめ 地域の課題に向き合う。

子どもたちの  
居場所をつくる。

私は、教育社会学を専門に、学校現場や地域をフィールドにした研究活動を行ってきました。大阪大学では人間科学研究科未来共創センターに所属して、豊中市の子どもの居場所づくりなど、まちづくりに関わる調査研究を実施。また、豊中市で長く市民活動を実践する小池繁子さんを代表とする地域の共生のための活動拠点「しようないガダバ」の取り組みと連携し、大学院生によるボランティアや研究教育活動も行っています。

小池さんは豊中で特定非営利活動法人とよなかESDネットワークなど、地域活動に従事されてきました。豊中市から委託された学習支援事業として「おもろ荘プロジェクト」を始動。とよなかリレーションハウスを拠点に、外国人やひとり親家庭、不登校といった子どもたちのための放課後塾を開いています。週に2回、勉強したり、ゲームやおしゃべりをして過ごしたり、時には晩御飯を一緒に食べたり、月に数回はコンサートなどのイベントに参加したりする場です。

「ゆるい」場所に  
しておく意味。

おもろ荘は、肩ひじ張らない活動。なるべくルールで縛らないことで、い



プロジェクトに関わる山本先生(右)と大阪大学の卒業生でスタッフの松野さん(左)。

## とよなかリレーションハウスプロジェクトとは

子ども・若者問題に取り組む複数のNPOが、空き家を活用した活動拠点「とよなかリレーションハウス」を協同で運営。社会課題に取り組む民間団体の活動をつないで複数のアプローチを掛け合わせることで、大阪大学をはじめ、市民、行政、企業など幅広い人々が関わることで、新しい視点や価値を生み出すことを目的とする。

ろいろな子が来れるし過ごしやすくなる。それは、より多様な、見えない課題やニーズを拾いあげることにつながるというのが、小池さんの考えです。大人の目があるこの場所に子どもたちが自らやってくるのは、何か理由があるはず。たとえば外国人の子どもたちだと、一般的に、日本人として社会になじもうとすればするほど親との距離を感じてしまうという状況に陥ることもありますから、家庭の代わりのようなつながりや安心感を求めているのかもしれない。仲良くしようなどのルールを決めるより、人として間違っていないければ自由にさせ、子どもにとっていつでも来たい場所にしておくことは大切だと思います。

## 普段着の ボランティアの大切さ。

活動に参加する市民ボランティアにも多くを求めず、暇な時にできる範囲で活動してくれればいいというスタンスです。私自身も、必要な時は専門家としての助言や支援を行います。普段は時間のある時にお手伝いする程度。豊中のまちづくりに関わるようになってから、どうせ関わるならと豊中市内に移住したので、いわば「地域のおっちゃん」のような感覚です。このように日常の延長として多くの人が参加するというのが実はまちづくりにとっては大切です、ハードルを可能な限り下

## スタッフの声

### 地域とつながっている 感覚を持てる魅力。

年代物の建物で畳の部屋がいくつかあるため、子どもたちは家のようにのんびり過ごしています。高校生になってからアルバイトや部活動で忙しく遠のいていた子ども、テスト前にはふらっと勉強しに来たりするので居心地はいいでしょう。私自身は、大阪大学1回生の頃に豊中市で学習支援のボランティアを始めました。子どもたちが入試を突破できたり、内面に抱えている問題を乗り越えたりしていく姿を見るのはもちろんうれしいのですが、子どもが育っていくのを継続して見守ることで、地域とつながっているという感覚を持てる魅力が大きい。大学生にとって地域は、それまであまり体験したことのない枠組みで考え行動できるフィールド。おもろ荘も、ボランティア大募集中です！

特定非営利活動法人とよなかESDネットワーク  
おもろ荘スタッフ

松野 雄太



「おもろ荘」のひとコマ。ボランティアの学生と子どもたちが将棋を指すなど、自由な時間が流れている。

### 山本 晃輔 Yamamoto Kousuke

大阪大学大学院人間科学研究科 講師

#### 問合せ先

大阪大学大学院人間科学研究科 附属未来共創センター  
https://www.hus.osaka-u.ac.jp/mirai-kyoso/  
とよなかリレーションハウスプロジェクト  
https://toyonakarehouse.jimdofree.com/  
特定非営利活動法人とよなかESDネットワーク  
http://ten.or.jp/

げていくことで、時代とともに失われていった地域の人同士の関係を結び直していくことに役立つのではないかと思います。

私が所属する附属未来共創センターは「未来共生プログラム」というグローバルリーダー育成カリキュラムを持つっており、ここで学ぶ学生も、おもろ荘をはじめ豊中市の市民活動にお世話になっていきます。グローバルな課題は、世界に飛び出して見つけるだけでなく私たちの日常にも満ちています。共生を考えるなら、まず地域を知り、靴底をすり減らしてさまざまなことを経験しながら学んでいくことが大切。大阪大学の学生にはもっと地域に参加してほしいと考えています。



自然を訪ねて  
知的ウォーキング。

「大阪大学豊中キャンパスにある待兼山を歩いてみませんか。『キャンパスに咲く花』の著者でもある栗原佐智子さんの案内で待兼山の自然観察の後、植物のお話。大阪大学総合学術博物館にも立ち寄ります」。

このようなお知らせ記事で、公民館講座の参加者を募り、2019年5月18日に「春の待兼山の自然を訪ねて」、10月16日に「秋の待兼山の自然を訪ねて」を大学と共催で開講しました。

春は大学会館の前のモモやヒマラヤスギなど身近な植栽のお話から始まって待兼山に入り、ナツツタとキツタを比較して観察するポイントで足を止め、まちなかではあまり見られなくなったカンサイタンポポの群生を見たり、タケノコがちょうど顔を出したところに遭遇したり。秋もほぼ同じコースを歩きますが、見どころは花より実。例えば、ドングリの形がよく似ているクヌギとアベマキ。違いは葉の裏を見てみましょう、と先生が拾い上げた2種



5月開催時の様子。緑豊かな待兼山を栗原先生とともに歩く。

類の葉が、「白い方がアベマキ」と伝言ゲームのように後ろの人へと手渡されていきます。また、セイタカアワダチソウは、他の植物を寄せ付けないかのように思われがちですが、ススキは同じ場所に生育することができそうです。鮮やかな黄色の花と黄金色の穂が山に秋の風景を創り出しています。

また観察会の途中、大阪大学総合学術博物館の「待兼山に学ぶ」のコーナーに立ち寄り、マチカネワニの化石を見学。参加者からは、その大きさと豊中市のこの辺りにワニがすんでいたということに驚きの声が上がります。最上階の部屋には「阪大キャンパスに咲く花」のデータベースがあり、コンビ

ユータで検索できるとのことで植物の好きな皆さんは興味津々です。博物館をあとにして標高77mの三角点まで歩き、ゴールの大阪大学会館へ。スタジオでの約30分のミニ講義は毎回「待兼山の植物」がテーマ。春には大阪大学会館の前にあるモモの品種について、秋には史料や古い写真からみる山と植物の変遷などについてのお話を聞いて講座は終了。

講座後の参加者アンケートには、「植物の名前を覚えたことで、身近な植物に親しみがわいてきました」「他の季節にも待兼山を訪れてみたい」「大学のキャンパスで学ぶ機会があるのはうれしい」などの声寄せられました。

植物探検隊@豊中市立蛍池公民館

春と秋の待兼山で

身近な植物に出会う講座



コヤボウキ



イヌビワ



クサギ(果実)



草花にうれしい人も大満足のミニ講義で、待兼山がもっと身近に。

(講座を終えて)

豊中市に4館ある公民館では、生涯学習講座を「人権・子育て支援・高齢者支援・環境・地域の魅力発信」のテーマに沿って企画し、開講しています。さらに、地域や大学と連携して講座を行うことで、幅広いテーマで充実した内容の、市民の学びの場をめざしています。今回の講座のなかでは、同じ場所で植物の観察を続けることで移り変わる自然の様子がよくわかるのお話がありました。待兼山での植物観察会も、地域の一人として公民館もかかわっていただけらと思います。また、蛍池公民館では、これまでも大阪大学落語研究会の寄席や、大阪大学の先生を講師に子ども向けの発明講座をキャンパス内で開くなどしているのですが、今後もさまざまな課題を通して、さらに大学との連携を深めていきたいと考えています。

弘中 伸明 Hironaka Nobuaki  
蛍池公民館館長

高田 伊津子 Takada Itsuko  
講座担当

問合せ先  
豊中市立蛍池公民館  
豊中市蛍池中町3-2-1-501ルシオーレ5F  
☎06-6843-5561



レクチャーの後には、大阪大学から石橋商店街の中までパレードも。

山崎 達哉 Yamazaki Tatsuya  
大阪大学大学院文学研究科 特任助教

問合せ先  
大阪大学大学院文学研究科  
アート・ブラクシス人材育成プログラム事務局  
https://shirutori.org/

ちんどん音楽と広告宣伝

大阪大学大学院文学研究科  
アート・ブラクシス人材育成プログラム

音楽を宣伝のわざとして活用するちんどん通信社は、自らの活動を「街角宣伝音楽隊」と称しています。音楽や芸能の知識や技術を活用する一方で、その活動が広告宣伝業であることを、大切にしていることを示しています。2019年11月16日、大阪大学豊中キャンパスサイエンススタジオBにおいて、ちんどん通信社による公演とレクチャーを行いました。また、レクチャーの後には、石橋商店街を中心に、路上での演奏やパフォーマンスも行ってもらいました。

今回の講座は、「徴しの上を鳥が飛ぶ」文学研究科におけるアート・ブラクシス人材育成プログラムの一環で、講座の一つとして実施しました。一般に公開しているアート・マネジメントを学ぶプログラムで、年度の始めに募集を行います。現在30名程度の受講生が参加しています。演劇、音楽、美術などさまざまなアートにふれながら、アートを通して現代社会を考えるプログラムを用意しています。今年度は、ちんどん音楽の他に、シンガポールの陶融儒業社の演劇公演の制作、ヘーデルボルク・トリオの公開リハーサル、モリムラ@ミュージアムの訪問など、多分野の芸術プログラムを実施しています。

プログラムでは、ちんどん通信社の代表・林幸治郎さんの実体験をもとに、お話を伺いました。ちんどん屋の歴史やご自身がちんどん屋を始めるきっかけ、ちんどん屋と商売・信仰との関係についてなど、多岐にわたるお話となりました。宣伝の口上に音楽を取り入れられた経緯や、町廻りと民間信仰的なものとのつながりについてなどのお話を伺いました。レクチャーの合間には、演奏も披露してくださりました。また、屋外で歩きながら演奏を行うことの工夫や、長時間にわたって歩く際

のコツなどについて、実演付きでのレクチャーもありました。他にも、路上や屋外など、一般的な劇場ではない場所で上演を行う際には、通りすがりの人には無理に声をかけず、気にかけて観たり聴いたりしてくれる人だけに話しかけるといった工夫をお話いただきました。

サイエンスカフェ@千里公民館「再生医療とミライの生き方」

つながるまなびば  
REPORT

# 先端医療の今と これからの語り合おう!

期待や不安を  
気軽に語り合おう。



「対話ツール:新しい医療と、暮らし」  
©八木絵香・水町衣里

私たちの生活に関わりが深い科学や技術を取り上げているサイエンスカフェ@千里公民館。2019年10月15日開催の今回は、iPS細胞などを利用してからだの機能を再生させる「再生医療」がテーマです。1歳のお子さん連れの方も含め、15人の市民が参加し、生命倫理や医学倫理などが専門の大阪大学大学院医学系研究科・加藤和人教授をゲストに招いて行われました。

一般的な公開講座などと違うのは、参加者は4、5人ずつ4つのグループに分かれ、対話ツールを用いて語り合いながら進めていく点です。各グループには、ファシリテーションスキルを学んだ大阪大学の学生が対話のお手伝いとして入ります。

前半は、再生医療への期待や不安をテーマに議論。目の前の病気や痛みが治ることへの期待感とともに、納得できる説明がなされるのか、誰もが公平に恩恵を被ることができるのか、失敗した時の対応はどうなるのかなど、不安要素が、参加者の方々に指摘されました。また、老化を止めるといった「神の領域」へ立ち入ること、臓器移植をどこまで許すのかといった生命倫理も話題に上りました。進行の八木絵香准教授がホワイトボードに意見をまとめ、加藤先生が再生医療は今どこま



で進んでいるのかという疑問に答え、具体的な研究成果なども含めて丁寧に解説しました。

**市民参加で考える  
先端技術の未来。**

後半は、再生医療にあたって何を大切にするべきなのか議論になりました。参加者からは、技術の評価基準や技術の暴走を抑えるようなルールづくり、研究開発の情報公開を進めて民意を反映させる必要性を指摘する声が上がりました。加藤先生は、再生医療研究の進め方やガイドラインについて説明。研究者には細胞という自然の力を借りているという謙虚さが重要だが、倫理が置き去りにされて技術が進む危険性があり、そのためにもいろいろな機会に多くの皆さんに考えてもらうことが必要だと訴えました。

どのグループも白熱した議論が展開され、市民の関心の高いテーマであることがうかがえました。話し合いのお手伝いをした理学研究科博士後期課程3年の南野宏さんは、「一般の方の考えを生で聴くことができたことは有意義でした。互いの意見を十分に受け止め、議論が発展していく場づくりのサポートができたのもいい経験でした」と、参加者の方々と語り合えた喜びをかみしめていました。

## サイエンスカフェ@千里公民館

豊中市の千里公民館、大阪大学COデザインセンターの研究者らが共同で2017年から開催。格式張らないカフェのような雰囲気の中で、市民と大学教員、学生が互いにコミュニケーションを取りながらサイエンスについて語り合い、大学の知と社会の知を結んでいます。

- STEP 1** 参加者は少人数グループに分かれます。
- STEP 2** 対話ツールを使って、この日のテーマをグループごとに語り合い、意見を会場全体で共有します。
- STEP 3** ゲストの先生が参加者の意見等にコメントしたり、質問に回答します。

問合せ先  
公共圏における科学技術・教育研究拠点 (STIPS)  
(大阪大学COデザインセンター内)  
<http://stips.jp/>



加藤 和人 Kato Kazuto 講師/大阪大学大学院医学系研究科 教授  
八木 絵香 Yagi Ekou 企画・進行/大阪大学COデザインセンター 准教授  
水町 衣里 Mizumachi Eri 企画/大阪大学COデザインセンター 特任助教

学内の生協店舗でご購入いただけます。

## H A N D A I G O O D S



大阪大学Wニ博士の頭脳グミ  
生協店頭価格¥115  
(税込・生協組合員価格¥110)  
大阪大学とUHA味覚糖との共同開発で実現。大学院歯学研究科で「噛む効用」を調べる研究にも使われた少しハードな食感のグミです。



Wニ博士  
アクリルキーホルダー  
¥325(税込・生協組合員価格¥310)  
手軽に買えるWニ博士グッズをという学内の声から誕生。各学部とノーマル仕様の12種類。付属のスタンドに立てて飾っても◎。



2019年6月8日の活動の様子。流しそめん企画担当の学生が、住民の方からタケの切り方を教わっています。

## 地域も学生も、自然に 学び、遊ぶ取り組み。

2019年6月8日、大阪大学豊中キャンパスのグラウンド北東および全学教育棟北側の竹林にて間伐・清掃を行いました。この日は春先のタケノコ掘りで収穫しきれなかった若いタケがたくさん伸びていましたので、密集している部分を間引きながらタケノコの生育に適した間隔になるように整備をしていきました。

2018年に北摂エリアはさまざまな災害にみまわれ、整備済みだった竹林エリア内も倒木などが発生しダメージを受けました。ただその後の継続的な間伐・清掃の結果、良い竹林の景観に戻ってきました。

この日は7月に阪大坂での流しそめんイベントを企画している経済学部のゼミの学生らが参加して、地域住民の皆さんから流しそめんのレーンのつくり方、枝の切り落とし方などを学んでいました。一本の長いタケを真ん中で一気に二つに割る方法を教えてもらおうと、学生らから「すごい！」という声があがっていました。

この竹林整備は「阪大タケの会コラボ」という名称で活動しており、10年ほど継続して活動しています。活動のきっかけは2007年度の大学の共通教育の授業での「地域を考えるワークショップ」です。その後周辺住民の皆さんと大学とが連携する活動に発展しました。植生のバランスを保ち、また良いタケノコが掘れるように年5回ほど継続的に活動を行っています。活動には豊中市域の周辺自治会の方々だけ

# 阪大の竹林エリアを 楽しく活用！

でなく、箕面市域の方、大学の教職員や学生、また地域の子ども会なども参加しています。元々は人が入れないような竹ヤブでしたが、少しずつ地道に



「ぜひ流しそめんイベントに参加してください！」

池内 祥見 *Ikeuchi Yoshiaki*  
サステナブルキャンパスオフィス 助教

問合せ先  
サステナブルキャンパスデザイン部門 & 施設部企画課施設設計係  
☎06-6879-7129  
[https://www.osaka-u.ac.jp/ja/academics/ed\\_support/Sustainable-campusoffice/campusdesign](https://www.osaka-u.ac.jp/ja/academics/ed_support/Sustainable-campusoffice/campusdesign)



2019年4月13日のタケノコ掘り。こんなにたくさん！

## 阪大タケの会コラボ

整備を進め、今は毎年春に地域の子供らも参加して総勢1000名を超えるタケノコ掘りを実施するまでになりました。他にも間伐材を地域の文化祭で活用したり、阪大坂での流しそめんのイベントにタケを活用するなど学生らの教育研究の場としても活用されています。ただの維持管理ではない、『使いこなす竹林』へと成長を続けていきます。

緑地空間の維持管理については、担い手不足やお金の面で厳しい状況を各地で耳にしますが、このタケの会の活動では、維持管理だけでなく活用までを視野に入れて、楽しみの要素を入れ続ける事で、多様な参加者を迎え入れ、今後とも良い形で継続・発展していければと考えています。タケの会の活動にご興味を持っていただいた方は、特に参加地域を限定しているわけではありませので、ぜひともご参加をお待ちしております。

## ご存知ですか？

# 大阪大学豊中キャンパスで 期日前投票ができます！

- 国政選挙
- 大阪府知事選挙
- 大阪府議会議員選挙
- 豊中市長選挙
- 豊中市議会議員選挙

学生を含む若い人たちに積極的に選挙に参加してもらおうと、豊中市と大阪大学は2015年から、豊中キャンパス内の大阪大学会館21世紀懐徳堂スタジオに期日前投票所を設けています。大学内での期日前投票所の設置は全国的にも珍しく、大阪府内では初めての取り組みとなりました。翌2016年には18歳選挙権が適用され、大阪大学の学生全員が利用の対象者となりました。豊中市民以外でも不在者投票制度の利用ができるので、下宿している学生たちも対象になります。

当初のねらいであった学生たちの投票率アップはもちろんのこと、ふたを開けてみれば教職員や近隣の住民の方もたくさん訪れる、活気ある期日前投票所となりました。理学研究科の廣野



豊中市議会議員一般選挙の投票済証を手に。廣野准教授(右)と谷さん。

大阪大学会館1階スタジオの期日前投票所は、投票日直前の水・木曜日の2日間(各12:00~19:00)のみ設置されます。期日前投票所によって投票できる期間や時間が異なることがありますので、詳しくは期日前投票所のある市区町村選挙管理委員会にお問い合わせください。

問合せ先  
豊中市選挙管理委員会事務局  
☎06-6858-2480  
<https://www.city.toyonaka.osaka.jp/joho/sanka/senkyo/index.html>



登録しにの〜

准教授は「毎回利用しています。平日の授業の合間に投票できるのがたいへん便利です。学生たちにも積極的に活用するよう声をかけています」。社会学共創課の谷さんは「投票日の日曜は、終日なかと家族でのイベントの予定が入っていて、家の近所の投票所には行けないこともありましたが、大学内に期日前投票所ができてからは仕事の休み時間中に毎回投票にできています」とのこと。学外の方にもインタビューしてみると、日頃から豊中キャンパスを散歩コースにしておられる方、この機会に豊中キャンパスに入ってみたくしたので来てみましたとおっしゃる方もおられました。

次の選挙では、学外のみなさまもぜひご利用ください！

## 大阪大学21世紀懐徳堂 / 市民と大阪大学をつなぐコーディネーター。

大阪大学21世紀懐徳堂は、社会学共創の情報を広報するとともに、市民と大阪大学をつなぐコーディネーターの役割を担っています。大阪大学の精神的源流のひとつである「懐徳堂」で尊重された学び合いの精神を汲み、高度な研究と教育の成果、文化的資源を広く社会に還元するため、公開講座やサイエンスカフェ、シンポジウムなどを企画・運営しています。

〒560-0043  
大阪府豊中市待兼山町1-13  
大阪大学会館4F  
☎06-6850-6443  
(平日10:00~17:00)  
<https://21c-kaitokudo.osaka-u.ac.jp/>



# 待兼山MAP

緑豊かな待兼山は、かつて『枕草子』にも紹介され、古代から近世の遺跡が眠る場所。最先端の教育と研究が進められている地でもありませんが、自然や歴史の魅力にもあふれています。



**待兼山はココ!**  
(大阪大学豊中キャンパス)  
最寄りの阪急石橋阪大前駅は  
大阪梅田駅から約20分!



## 豊中キャンパスに、 トラりんがやってきた!

京都国立博物館の人気公式キャラクター「トラりん」がキャンパスメンバーズのPRのために大阪大学に遊びに…  
いえいえ、おしごとに来てくれました。お昼休みに講義室から出てきた阪大生たちは、突如目の前にあらわれたトラりんとワニ博士のコンビにびっくり。最初は遠巻きにみている学生たちも、トラりんの「一緒に写真を撮ろうよ!」のキュートな手招きに引き寄せられ、次々に撮影の輪が。ちなみに笑顔をそろえるかけ声は、はいチーズ!ではなく「はい、トラりん♪」です。トラりんはとにかくフレンドリーで、ベンチでお弁当をひろげる学生の隣にぴったり座りうらやましように指をくわえてお弁当をじいっとみつめたり、広場でジャグリングを練習中の学生の技が決まれば大きな拍手で場を盛り上げたりと、あちこち走り回って阪大生との交流を深めていました。ワニ博士の方も安定の人気ぶりで、姿を見つけ遠くから駆け寄る阪大生や教職員たちと一緒に記念写真におさまりつつ、しっかりとキャンパスメンバーズのパンフを配布して、PRにつとめていました。

**トラりん**

京都国立博物館蔵の尾形光琳による「竹虎図」に描かれた虎がモデル。  
名前: 虎形琳ノ丞(略して「トラりん」)  
誕生日: 10月10日  
お仕事: 京都国立博物館PR大使。

**ワニ博士**

1964年大阪大学豊中キャンパスで化石が発見されたマチカネワニがルーツ。  
名前: ワニ博士  
誕生日: 5月3日  
お仕事: 大阪大学公式マスコットキャラクター。受験生、阪大生、研究者など、めっちゃがんばる人たちを応援!



京都国立博物館  
京都市東山区茶屋町527 ☎075-525-2473(テレホンサービス) 月曜休(祝・休日の場合は開館、翌火曜休)  
※開館時間と観覧料は展示によって変わります。 <https://www.kyohaku.go.jp>

**キャンパスメンバーズとは?**

**特典**

**常設展の無料観覧  
特別展・共催展の割引観覧**

国立美術館等が提案する、大学等を対象とした会員制度で、大阪大学も加盟校です。学生及び教職員に、文化や芸術、科学や歴史に接する機会を広く提供するもので、関西の美術館、博物館等の13施設に、学生証又は教職員証の提示により無料又は割引料金にて入場することができる制度です。

**利用可能施設**

国立国際美術館、京都国立近代美術館、大阪市立美術館、大阪市立東洋陶磁美術館、国立民族学博物館、京都国立博物館、奈良国立博物館、大阪歴史博物館、大阪市立自然史博物館、大阪城天守閣、大阪市立科学館、大阪くらしの今昔館、アサヒビール大山崎山荘美術館

※特典の詳細は各館のホームページをご確認ください。  
※アサヒビール大山崎山荘美術館は割引観覧(100円引き)のみ。

●問合せ先(キャンパスメンバーズ)  
大阪大学教育・学生支援部教育企画課総務係 ☎06-6879-7094  
gakusei-gakumu-soumu@office.osaka-u.ac.jp